

## 東京駅から5分、大手町に出現した不思議の森の物語

広島真知子（千葉市若葉区）

東京駅丸の内北口を出て5分、永代通りに面したところに2014年4月に竣工した大手町タワーをご存じでしょうか。皇居東御苑 大手門を目の前にした高層ビルです。このビルの敷地のおおよそ3分の1に相当する3,600㎡に「都市を再生しながら自然を再生する」というコンセプトのもとに植樹された空間があります。大手町の森と名付けられたこの緑地のお話をさせていただきます。



2016年の晩秋、思いがけないご縁をいただき、この森に関わらせていただくことになりました。千葉県君津市の雑木林を大手町に、土壌も含めて移植したと聞いて驚いたことが思い出されます。園芸用に管理された木ではなく、自然の中で育った木が選ばれ、移植されて造られた森なのです。

森の中で生育する全ての植物の生育状況の記録を残し「大手町で人が心地よく明るい常落混交の自然風の森として管理された状態での植物の移り変わりを追いかけていきたい。」とのご依頼でした。毎月1回、大手町に通って5度目の春を迎えることになりました。

これまでに記録した植物は木本類・草本類・シダ類を含めて200種をはるかに超えております。現在、全てが生育しているわけではありませんが、想像以上に豊かな森になっているものと確信しております。

突然出現したヒガンマムシグサの実生は君津の雑木林由来と思われ、驚かされました。また、植えられたコナラ、クヌギ、タブノキなどの実生が多く見られ、大手町で世代交代が可能ことが確認され、興味深い姿でした。更に、実生のタブノキの若葉にはアオスジアゲハの幼虫が育ち、無機質な都会のビルの手すりに憩う姿には感動すら覚えてしまいました。



ヒガン  
マムシグサ



クヌギ実生



コナラ実生



アオスジアゲハ幼虫

春はビルを背景にヤマザクラが注目を集めます。東京にお出かけの折には、是非、お運びください。

## 大分の自然と活動

藤田浩二（大分県大分市）

皆様ご無沙汰しております。令和元年3月に、茂原市から大分県大分市に移住した藤田浩二です。移住して2年、生活もどうにか落ち着き、関東とは若干異なる大分県の自然を、いつも新鮮な気持ちで楽しんでおります。そんな大分の自然や私の活動の一部をご紹介します。

### ○大分の自然

私の住む大分市街地付近では、地形の特徴として山と海がとても近いです。ですので動植物を観察するときに、山と海の動植物が混在した感じで楽しいです。

自宅付近の植物を観察してみると、1～2割位は千葉では見ない種類で、図鑑片手に新鮮な気持ちで勉強しています。

鳥類も、小型の野鳥は種類を多く見ます。我が家の庭でも31種類を確認しました。ヤマガラなどはリビングまで入ってきます。ただ冬のカモ類は、数も種類も少ない感じです。



### ○私の自然活動

大分県の指導員連絡会には入会していますが、活動に都合が合わず、あまり参加できていません。

私の現在の活動は、大分市が推進している森林セラピー事業に、森林セラピストとして一般市民を森にガイドする活動です。 <https://www.oita-foresttherapy.jp/>

大分市の森林セラピー事業とは、市民の心身の健康増進を目的に、五感を使って森林を散策する、大分市役所が企画するイベントです。概ね毎月開催され、毎回定員の3倍位の申し込みがあります。

五感を促しての森林セラピーガイドは、千葉での自然観察指導員としての経験がとても役に立っています。

仕事は、知的障がい者支援施設で支援員をしています。施設でも五感を使った自然観察を要望されて時折おこなっています。普段は安全に配慮して室内活動が多めなので、「楽しかった」「気持ちよかった」と、利用者の方々に喜んでもらっています。

コロナが落ち着いた際は、自然や温泉も豊かな大分にぜひどうぞ。



## 私の大槌物語

大原則彦（岩手県大槌町・南房総市）

岩手県大槌町に移住して早4年が経ちます。今年は東日本大震災から節目の10年。手作りのログハウスを大槌の駅前に建て、産業集積地に工房を借り、ログハウス、ツリーハウスのお店を開店しています。

今年はコロナ禍のため、大槌には1年以上ご無沙汰ですが、コロナが収まったら、19号台風で大きな被害を出した丸森町の仮設にログハウスの営業をしようと考えています。お金の無い被災者相手に安い、頑丈、エコロジーな住宅をと考えています。坪10万円でリース住宅もありのシステムです。

評判はこんな貧乏臭い家はいやだ、と散々ですが、物置として1軒鶉住居（釜石）で売れました。ログハウスがわからない、リース住宅はもっとわからない。お前がどこの馬の骨か、わからないと前途多難ですが、次世代の防災住宅として、どこか根拠のない自信をもっています。

日本全国山林は木があふれています。人件費が高くて国産材はなかなか売れないのです。家も新建材が多く、なかなか材木は苦戦しています。しかし、この頃、身の丈にあった家でいいのよね。こんな家でいいのよね。という声が聞かれる様になりました。大きな立派な家がステイタスであった時代は終わりつつあるようです。タイニーハウスがブームになり豪邸の空き家が増え、バンライフなどもブームだそうです。

また、キャンプがコロナ禍で人気となり、貸山林業が好調です。ワーケーション、二拠点居住、などライフスタイルが変化しています。ダーチャ（簡易別荘兼私的避難所、備蓄倉庫）も防災関係者には反応も良く自給自足システムの付いたセカンドハウスは、これからのレジャーの、あり方を示唆している様です。

ログハウス、ツリーハウス、ダーチャは里山活動に大きな追い風となる気がします。阪神淡路大震災、東日本大震災、の教訓を生かし、残りの人生は来るべき次の大震災に備え様と考えています。



大槌駅前に建てた自宅（左）



釜石市鶉住居のログ物置（右）

## 出てくるには早すぎたキマダラミヤマカミキリ

松戸里やま応援団七喜の会が活動する紙敷石みやの森でナラ枯れし、枯死木となったコナラ（胸高直径33cm）を伐倒し、搬出のための準備で丸太づくりをしていたところ、丸太の樹幹部分に7mmほどの穴を見つけました。丸太から昆虫のおしりと足が見えたので引き上げてみるとキマダラミヤマカミキリが現われました。元気よく歩いています。さらに別の丸太から干からびた幼虫が落ちてきました。カミキリの成虫は越冬すると聞いていたので、枯れたコナラの中で冬を越したのかと感心しました。幼虫はすでに干からびていて残念なことをしました。

立春を過ぎて、気温が10度を超える日が多くなったとはいえ、寒い北風の記憶だけが体に残っている日々が続いていました。寒い時季にナラ枯れしたコナラの枯死木の中で暮らす姿に出会うことができたわけですが、コナラは枯れていく木、キマダラミヤマカミキリはこれから飛び立っていく昆虫、食われて枯れ、穿入して生き延びる、命の交換を目の当たりにしたようなちょっと切ない感覚に陥りました。



キマダラミヤマカミキリ幼虫と成虫

## カシノナガキクイムシはナラ枯れの原因？

ナラ枯れは平成29（2017）年に鴨川でマテバシイから発見されたのが千葉県内では最初と言われています。松戸市の公式な発表はありませんが、紙敷石みやの森では、平成30（2018）年頃にコナラの樹幹から白い粉（フラス＝孔道から出される木くず）が吹いているのを発見しました。

ナラ枯れはカシノナガキクイムシが媒介するナラ菌によってナラ類、シイ、カシなどにおこる伝染病と言われています。ナラ類ほかの樹幹にカシノナガキクイムシが穿入し、ナラ菌のほかに餌になる酵母類を運び入れ孔道内で栽培し餌を確保します。ナラ菌の穿入により、樹木は一種のアナフィラキシーショック状態に陥り、水や栄養の通り道をふさぎ、水が届かなくなった葉の色は枯葉色に変化し、急速に枯れ死します。

/ようです。枯死木も10数本見つかっており、伐採・運搬・処分が必要になっています。

カシノナガキクイムシと同時に穿入するナラ菌と酵母類。カシノナガキクイムシが掘り進んだ孔道で卵が幼虫になり、酵母類を餌として成長し、次の夏にはほかのナラ類を目指して飛び出し、マスアタックをかける。そしてナラ枯れを招く。種の持続にけるエネルギーを垣間見たような思いです。（松戸市 藤田 隆）



カシノナガキクイムシ



フラスの発生したコナラ

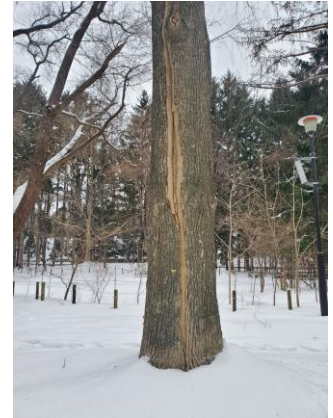
## 北の国だより

2月3日、立春の札幌の気温は-12℃でした。北海道の春は、まだまだ先ですね。雪道を40分かけて通勤しているのですが、職場についたところには息が切れています。まだ、雪道の歩き方に慣れていませんね。さて、今回も、札幌の街なかで見つけた小さな自然を紹介します。（佐野由輝）

### 樹木も急に冷え込むとあかぎれに？

北海道の森の課でよく見かける光景です。凍裂です。詳しいメカニズムは完全に解明されていませんが、冬の寒さで樹体内の水分が凍結し、割れが発生する現象です。針葉樹ではトドマツ、広葉樹ではヤチダモなどで良く発生します。写真の木はヤチダモです。この凍裂ですが、もちろん、厳冬期にも発生し、真夜中に「カーン」という独特の音が聞こえるのですが、冬に入ったばかりで、急に冷え込んだ時も凍裂が起きるそうです。

そういえば、私も、暖かい千葉から急に寒い北海道に引っ越した4月、数十年ぶりに、あかぎれができ、つらい思いをしました。ところが、この冬は、あかぎれができませんでした。4月よりもずっと気温の低い日が続いているのに不思議ですね。冬の寒さに体が慣れたからかもしれませんね。樹木も、急な冷え込みには対応できないのかな？

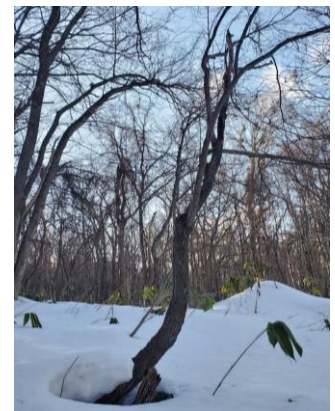


### 全国制覇した樹木

日本列島は南北に長く、亜寒帯の北海道から亜熱帯の沖縄まで、気候帯も幅広いですよね。このため、生物多様性も豊富で、樹木だけで約千種を数えると言われていています。その中で、47都道府県全てに自生している樹種は何でしょうか？パラパラと図鑑をめくって調べてみました。

スギ、アカマツ、コナラ、クヌギ、ブナ、いろいろ思いつくかもしれませんが、いずれも、北海道に自生していなかったり、沖縄に自生していなかったりで、47都道府県全てを制覇するのはなかなか難しいようです。

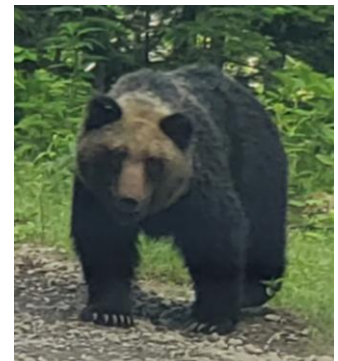
そんな中、ヤマグワが全国制覇していました。森林には、最高気温を下げ、最低気温を上げる気候調節機能があるため、大木に守られながら、したたかに全国制覇したのかもしれませんがね。



### ヒグマは樹皮に隠れて冬眠？

北海道には約2千頭のヒグマが生息していると推定されています。私は、これまで、知床半島と渡島半島で、合計10数頭のヒグマに遭遇しました。いずれも夏です。さすがに冬は冬眠するので、安心して山に入っていたのですが、うっかり、樹皮に隠れて冬眠中のヒグマに出会ってしまいました。

ニセアカシア（ハリエンジュ）の冬芽（隠芽）です。並べてみると、ヒグマにそっくりではありませんか？



## 樹木とキノコのスケッチ～描いて発見する自然のすばらしさ～（中田真也子）

春はどんどん進んでいきますね。今回は昨年3月に描いた絵を発表させていただきます。昨年の今ごろはコロナ感染が急激に広がり、家にいることが多くなり、沢山絵をかいていました。



### <ジンチョウゲ>

イオンモールに買い物に行ったら、11時まで開かず・・・コロナ対策ですね。仕方がないのでイオンモールの周辺を散歩。

そうしたら、この辺ではあまり植えられていないジンチョウゲがあちこちに！！植樹のイベントで植えられた木らしく、ジンチョウゲは花木なのに人の入れないおくーの方に植えられたり、手前に固めて植えてあったり。

さらに木々が高密度に植えられすぎて成長が悪そうでしたが花だけはちゃんと咲かせていてしっかり香りを放っていました。

長女と二人見入っていたら剪定の作業されていた女性が「どうせ切るところだから花切ってあげるわ。持っていきなさい。」とって何本も切ってくださいました！！家で生けて絵を描きました。

2020年3月9日千葉市美浜区

### <レンギョウ>

外は大雪、さらにコロナ拡散防止のため、一日家にいたので、レンギョウの絵を描いてみました。

レンギョウは思い出の花です。小さいとき大阪の吹田の千里ニュータウンで住宅街の一番高い丘の上にレンギョウが沢山植えられている公園があって、春休みになると、姉と一緒に毎日満開のレンギョウと北摂の山々を見に行きました。少し暖かくなった春の風が心地よかったです。

帰りは、土筆を摘んで帰って、家では土筆の袴をむいて夕飯に食べる・・・住宅地でしたが自然があって楽しい環境でした。

今住んでいる場所に植えられているレンギョウは花と葉が同時にできてきて子供の頃見ていたレンギョウと少し感じが違いますが見るたびに子供の頃のこと思い出します。

2020年3月29日千葉市美浜区



# 「水草の生活史観察図鑑」のご案内

(事務局)

水辺の植物同好会(横林康介さん主催、事務局:都市緑化植物園内)から、標記図書の寄贈があり、併せて会員への紹介の依頼がありました。

送付文書に「同定用の図鑑ではなく、生活史を観察記録したもので類書はない」とありましたが、身近な水草の一生を詳細に観察した記録が、数多くの写真と綿密な資料で構成されており、「類書はない」の表現に納得しました。

例えば「コウホネ」のページは以下のような構成で、5ページに渡って詳細な記録と写真、図表からなっており、実際に観察した記録ならではの臨場感があふれています。

1p (模式図と写真6枚)

コウホネの生活史(環)の模式図

2~3p (写真6枚)

根茎の越冬芽: 2月下旬、水底の泥を掘り起こしてみると径3~5センチの太い根茎が.....

根茎から出芽: 3月下旬、根茎から新葉が立ち上がり展開し始める。まず5~7枚の沈水葉.....

抽水葉と花序出現: 4月中旬、抽水葉が立ち上がってくる。長卵形で基部が矢尻型の葉身が.....

開花: 6月上旬、黄色の花が1個上向きに咲く。がく片が5個、その内側に退化した雄しべ状の.....

根茎の伸長と葉の展開: 夏場、葉は旺盛に茂り、一株から7~8枚の抽水葉が出る.....

果実の成長と種子散布: 花のあと、果実は水中に引き込まれ成長する。若い果実は緑色の卵型で.....

4~5p (図2枚、写真4枚)

根茎に越冬芽形成 10~11月には葉は枯れ朽ちてしまう。土から掘り出した冬の根茎は.....

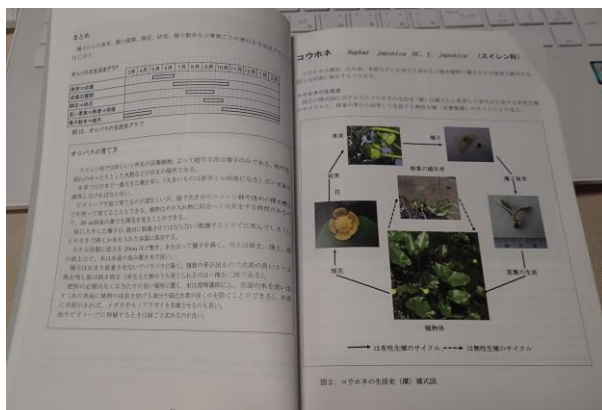
種子の発芽: 種子発芽して生長しはじめた実生を図12に示す。

まとめ: 冬芽からの出芽、葉の展開、開花・結実、種子散布、冬芽の形成などの事象ごとの進行を生活史ダイアグラムとして図13に示す。(コウホネの生活史グラフ)

コウホネの育て方(コラム)

取り上げられているのは、水性コケ・シダ類3種、種子植物35種、藻類1種の計38種です。

イチョウウキゴケ、ジュンサイ、コウホネ、ヒツジグサ、トチカガミ、セキショウモ、カキツバタ、ヨシ、マコモ、ミクリ、ヒシ、ミツガシワ、アサザ、セリ、シャクジモ.....等々です。



非売品とのことですが、在庫があるので、希望者には1冊1500円でお付けしますとのこと。希望者は、山田寛治さん(森林インストラクター)までお早めにどうぞ。(連絡先は後日送信します)